

フレッシュマンキャンプに関するアンケートの結果と分析

—考古・日本史学専攻におけるFDへの取り組みの一事例—

秋 山 哲 雄

フレッシュマンキャンプとは

考古・日本史学専攻では、2006年から秩父ミューズパーク・スポーツの森において、新入生全員参加で一泊二日のフレッシュマンキャンプをおこなっている。この行事の目的は二つある。

一つ目の目的は、新入生の履修指導である。文学部便覧や時間割表などを見ながら、学生毎の時間割を確定し、スムーズに大学で学べるようサポートしている。大学での科目履修は、高等学校までとは大きく異なることを十分に説明し、履修漏れなどによって学生生活でつまづくことのないよう指導している。

二つ目の目的は、新入生同士の親睦を深めることである。新学期が始まる前に友人関係を築くことによって、大学で孤立したりドロップアウトしたりするのを防ぎ、友人とともに充実した学生生活を送るための手助けとなることを目指している。この目的を達成するために、二日目には、ドッジボールなどのレクリエーションをおこなっている。

また、上記の目的のため、約10名の4年生が指導学生として参加している。履修や大学生活に関して助言するためである。

アンケート調査のねらい

考古・日本史学専攻では、2011年末に、当時の3・4年生を対象としたアンケートをおこなった。3・4年生の合計約160名のうち、50人から回答を得た。回収率は約30%であり、この種の調査におけるサンプルとしては妥当である。Q10～12にあるように、男女比は66%対34%、3年生と4年生の比率は50%対50%、実家と一人暮らしの割合は62%対38%であった。これらの割合は、実際の全学生の割合に近似する。したがって今回のアンケートは、学生全員から回収できたものではないが、専攻に所属する学生の意見を反映していると推測するのに十分なサンプルが集まったと言える。

なお、今回アンケートをおこなった3・4年生に対しては、彼らが新入生として参加したフレッシュマンキャンプの際にも、簡易アンケートを実施している。その際には、90%以上がフレッシュマンキャンプに満足したと回答している。今回、入学から2年～3年を経過した時期に改めてアンケートをとることで、本専攻の考えるこの行事の目的が、3・4年生にとってどの程度達成されているのか

を知るために、3・4年生をアンケートの対象として選定した。

アンケート調査の結果と分析

Q 1、フレッシュマンキャンプに参加して、科目の履修について理解できましたか

1、だいたい理解した	2、少し理解した	3、あまり理解できない	4、まったく理解できない
12	30	6	2 (単位：人 以下同)
(24%)	(60%)	(12%)	(4%)

フレッシュマンキャンプの最大の目的である、履修指導の理解度についての設問である。「だいたい理解した」「少し理解した」を合計すると84%にのぼり、おおむね所期の目的は達成されていると言える。ただし、「あまり理解できない」「まったく理解できない」が16%というのは、安心できる数字とは見なしがたい。この16%を理解させるような指導が必要となるであろう。



履修指導の様子



履修指導する教員と指導学生

Q 2、フレッシュマンキャンプに参加して、大学の雰囲気は把握できましたか

1、把握できた	2、少し把握できた	3、あまり把握できなかった	4、把握できなかった
3	24	17	6
(6%)	(48%)	(34%)	(12%)

大学の雰囲気を把握できたかどうかに関する設問である。大学からは離れた秩父で開催しているため、大学の雰囲気を把握するのは難しいようである。ただし、雰囲気の把握はフレッシュマンキャンプ本来の目的ではないので、ここでは特に重大にとらえる必要はあるまい。大学で開催すれば大学の雰囲気を把握できるとも考えられるが、施設面から考えてあまり現実的ではない。後掲の自由回答欄には、「場所が遠い」「大学内でやればいい」といった意見もあるが、費用面なども合わせて考えると、今よりも適切な場所を探すのは簡単なことではない。

Q3、フレッシュマンキャンプに参加して、教員と話しましたか

1、たくさん話した	2、少し話した	3、あまり話さなかった	4、まったく話さなかった
3 (6%)	25 (50%)	17 (34%)	5 (10%)

教員と話したかどうかについての質問である。「たくさん話した」「少し話した」を合わせると56%で、およそ半数である。一泊二日と期間が短いことや、新入生の数が多いことなどを考えると、この数字はやむを得ないところもある。しかし、新入生が大学の教員と話をするのは、新入生の今後の学生生活にとって重要である。56%からもう少し数字が上がるよう、教員からのアプローチも期待される。

Q4、フレッシュマンキャンプに参加して、四年生の指導学生と話しましたか

1、たくさん話した	2、少し話した	3、あまり話さなかった	4、まったく話さなかった
7 (14%)	22 (44%)	16 (32%)	5 (10%)

4年生の指導学生との会話については、「たくさん話した」「少し話した」を合わせると58%で、前項Q3の教員との会話とあまり変わらない数字となった。実際にその場にいる感覚では、4年生の指導学生は積極的に話しかけているように見えるが、新入生にとってはまだ物足りない部分も残るようである。



机間で履修指導する4年生



ドッジボール後の指導学生と教員

Q5、フレッシュマンキャンプに参加して、四年生の指導学生は必要だと思いますか

1、とても必要	2、必要	3、あまり必要ではない	4、必要ではない
16 (32%)	30 (60%)	1 (2%)	2 (他1) (4%)

直前の質問では、指導学生と話したという数字が思ったより少なかったが、指導学生が必要かどうかを聞くこの質問では、「とても必要」「必要」という回答が

92%を占めた。履修や大学生活など、やはり4年生は頼もしく思えるのであろう。4年生の指導学生がフレッシュマンキャンプには不可欠であることがよく分かる結果となった。

Q 6、フレッシュマンキャンプに参加して、他の新入生と話しましたか

1、たくさん話した	2、少し話した	3、あまり話さなかった	4、まったく話さなかった
26 (52%)	20 (40%)	2 (4%)	1 (他1) (2%)

新入生同士の会話があったかどうかをきくこの質問では、「たくさん話した」「少し話した」の合計が92%と大部分を占めた。Q 4・Q 5では、教員や指導学生とたくさん話したとは思っていない学生が意外と多かったが、新入生同士はよく話しているようである。新入生同士の親睦を深めるという所期の目的は、達成されていると言えよう。「あまり話さなかった」「まったく話さなかった」の合計6%は多い数字ではないが、これをどのように減らしていくかが課題である。

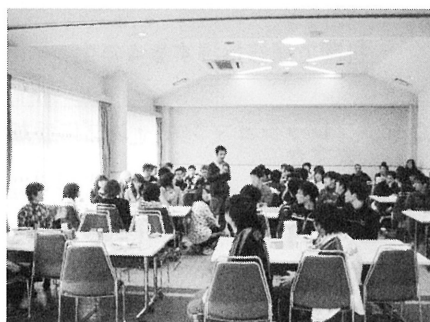
Q 7、フレッシュマンキャンプに参加して、友人はできましたか

1、たくさんできた	2、少しできた	3、あまりできなかった	4、できなかった
16 (32%)	28 (56%)	3 (6%)	2 (他1) (4%)

友人ができたかをきくこの質問では、Q 6の結果から推測できるように、友人が「たくさんできた」は32%のほり、「少しできた」の56%と合わせると合計で88%となった。友人がいないまま大学生活をスタートさせるという不安な状況になっていない新入生が、これだけいたことになる。やはりフレッシュマンキャンプは新入生にとっては重要な行事であることが分かる。Q13の「フレッシュマンキャンプに参加してよかったこと」でも、友人ができたことをあげる学生が25件近くあった。Q 6と同様に、「あまりできなかった」「できなかった」の10%をどのようにケアするかが課題となろう。



新入生一人ずつ自己紹介①



新入生一人ずつ自己紹介②

Q8、フレッシュマンキャンプでドッジボールをすることについてどう思いますか

1、とても良い	2、良い	3、あまり良くない	4、良くない
14	25	5	5 (他1)
(28%)	(50%)	(10%)	(10%)

男女でともに参加できるスポーツとしてドッジボールをおこなっているが、「とても良い」「良い」を合わせると78%で、おおむね好評のようである。新入生の約90名という人数の多さや、男女混合であること、あるいは施設面などを考えると、なかなか全員が満足するスポーツは難しい。不評でなければとりあえずは継続したいところである。

なお、部屋割りとドッジボールのチーム分けが重複しないようにして、多くの新入生が相互に交流できるよう配慮している。



ドッジボール開始！



逃げる！

Q9、フレッシュマンキャンプに参加して、満足していますか

1、大変満足できた	2、満足できた	3、あまり満足できなかった	4、満足できなかった
12	29	7	2
(24%)	(58%)	(14%)	(4%)

フレッシュマンキャンプ全体の満足度をきくこの質問では、「大変満足できた」が24%で、「満足できた」の58%と合計すると82%となった。全体の評価としては満足度が高いようである。満足できない理由はQ15の自由回答欄に示されており、「遠い」という不満が10件で最多であった。フレッシュマンキャンプの目的や内容そのものに対する不満はあまりないようである。

以下の10、11、12は回答者の属性に関わる設問である。結果は以下の通り。これらの設問に対する評価は、本稿「アンケート調査のねらい」を参照。

Q10、あなたは何年度の入学ですか

1、2007年度以前	2、2008年度	3、2009年度	4、2010年度
2	23	25	0
(4%)	(46%)	(50%)	(0%)

Q11、あなたの性別を教えてください

1、男	2、女
33	17
(66%)	(34%)

Q12、入学後のあなたの住まいについて教えてください（一番期間の長いものを選んでください）

1、実家	2、親戚宅	3、一人暮らし
31		19
(62%)		(38%)

Q13では、フレッシュマンキャンプに参加してよかったことを自由に回答する質問を設定した。複数の回答があったのは、「友人ができた」25件、「履修の方法が理解できた」4件、「先輩と話ができた」2件、「ドッジボール」2件となった。いずれも、この行事の目的がそれなりに達成されていることを示している。

そのほかには、「最初の授業から楽しんで授業に臨むことができた」、「4年生に履修でのアドバイスを聞いたり、友達と話し合って決められたのがよかった。また、友達ができたことが一番良かった」、「友達ができたし、いやでも人とコミュニケーションをとらなきゃいけないので、人見知りにも良いと思う」、「フレッシュマンキャンプに参加したことで、早く馴染めたと思います」、「すぐ友達ができた。女の子のアドレスが聞けた」といった回答もみられた。

Q14では、フレッシュマンキャンプに参加してよくなかったことを自由に回答する質問を設定した。複数の回答があったのは、「遠い」10件、「集合場所まで交通費がかかる」2件、「施設への不満」2件、「ドッジボールをやめてほしい」2件、「人が多い」2件であった。新入生にとっては秩父がやや遠く感じられるようである。「人が多い」というのは、致し方ないか。

そのほかの少数意見としては、「入学してすぐだったので、仲良くできるかが不安だった」、「遠くて、どこに連れて行かれるのかわからず不安だった」といった回答もあった。最初の不安をどのように軽減するかも課題であろう。もちろんどこに連れて行くかは事前に周知している。

Q15の、フレッシュマンキャンプに関して自由に記述する質問で、目につく回答は、「遠い」が5件、「今のままでよい」が5件であった。遠いことに負担を感じる学生が少しいるようである。開催地を変更するためには施設面などの調整が必要となるので、早急な変更は難しいが、今後の検討課題としては意識すべき

ものであろう。

また、少数意見の中には、「二泊三日にしてください」、「もう少し日数が多い方がいいと思います」という意見がある一方で、「泊まらなくていい。日帰りでもいい」という意見もあった。場所や日程など、一考の余地は残されているかもしれないが、なかなか全員が納得し、満足する行事を実現するのは難しそうである。そうした形式よりも、むしろ内容を充実させることを優先させるべきであろう。

フレッシュマンキャンプの評価と今後の課題

フレッシュマンキャンプの目的は、新入生の履修指導と、新入生同士の親睦とのふたつである。科目履修について理解したとする学生は84%であり、友人ができたとする学生は88%という結果が出ているので、この二点については、おおむね意図した効果があがっているといえよう。これらの数字を100%にするのが理想ではある。

全体の満足度で言えば、フレッシュマンキャンプ実施直後の90%以上という数字よりもやや下がっているかもしれないが、それでも82%の学生が満足と回答していることの意義は大きい。3・4年生になってもこの行事に満足していることは、国士舘大学文学部考古・日本史学専攻で過ごす学生生活全体にとって、この行事が良い効果をもたらしているということである。本専攻のフレッシュマンキャンプという試みは、十分に成功していると評価できる。当面はつづけるべき行事だといえよう。



フレッシュマンキャンプの2年後におこなわれた3年生対象の太宰府方面研修旅行

課題として考慮すべきは、開催場所を遠く感じる新入生がいるということくらいであろうか。しかし、施設面を考えると、現在よりも適当な場所はなかなか見当たらない。

また、4年生の指導学生は必要だという回答が多かったことは、今回のアンケートの意外な収穫であった。諸条件を整えば、もう少し組織的に多くの4年生を動員することも考えてもいいかもしれない。文学部では学年間の関係がやや稀薄だと思える部分もあるが、学生たちは意外と先輩・後輩のつながりを求めている可能性もある。

梅ヶ丘キャンパスが完成し、鶴川キャンパスを知る世代の学生はほぼ卒業している。現在では入学から卒業まで同じキャンパスに通うのだから、フレッシュマンキャンプのような行事に限らず、学年間の交流を深めるような行事が、次なるFDとして企画されてもいいのではないだろうか。